

## 1999年から2002年までの教務委員会関係の活動・提言

工学部教務委員長  
皆川 勝

### カリキュラム改編における基本方針に関する提言（教務委員会：H11.1.18）

- 「多様な命題に対応できる基礎学力を修得」させるために、最低限必要な科目の必須化・選択必修化（卒業要件単位数の20%から30%）
- 進路にかなった教育系統図の作成と専門科目の厳選
- 標準履修単位数の設定
- 通年科目の廃止と秋季入学

### 教育効果向上のための施策（教務委員会：H11.1.27）

- 進路ごとの履修計画指導
- 学習意欲向上、マナー向上
- 基礎学力の修得
- 履修科目の集中した勉学
- 魅力ある授業・わかりやすい授業
- 学生による授業評価の徹底
- 可能な範囲で少人数教育
- 履修登録後の履修辞退制度
- 履修単位数の適正化
- 休講に対する補講対策
- シラバスの充実
- 学生による授業評価の様式
- アカデミックアドバイザー制度
- TA制度の活用
- 教育教材研究会
- 教員自らの授業点検システム

### 工学部教務委員会 1998年度の審議事項等（教務委員会：H11.3.15）

- 履修科目数の適正化（審議中）
- カリキュラム改編（基本方針の提言）
- 席次の算定方法の改訂（不合格点の算入、履修申告辞退の手続き実施）
- 単位互換制度（四工大、YC）
- 大学院への飛び級（3年卒業可能となり、飛び級自体は意味を失ったが、3年卒業は？）

- 転入学・転学部・転学科（基本方針作成）
- 秋季入学制度（他大学調査、優先課題としない）
- 教養ゼミナールの位置づけなど（開設方法と認定単位数審議）
- 追試験制度（審議中）
- 就職試験を念頭に置いた基礎力養成カリキュラム（審議中）
- 学生の授業評価（原案作成）

「カリキュラム改編における基本方針に関する提言」について（堺工学部長→増田教務委員長：H11.3.26）

- 工学部中期構想：「企業の技術開発実務の中核となる技術者を送り出すこと」を目標
- 地に足の着いた目標設定が必要
- 工学部共通分野について、教務委員会で基本を定めるよう建議することを求めている。

見解（堺工学部長→教務委員会：H11.5.19）

- 一般教養・数学・物理化学などの基礎科目の教育システム再構築
- 現状に加工を加えるだけでなく、基本的原則を具体化して実施方策の建議までゆく
- JABEEに関して、工学部として対応すべき事柄、学科間の調整
- 教員増員を前提としない計画のみが意味を持つ

わが工学部は次世代の工学部教育として何を行うか（堺工学部長→工学部教員：H11.9.6）

- 個々の学生に満足を
- 公的資格取得奨励
- 自発性尊重科目（創造性科目、意欲向上科目）＋きめ細かい個人指導
- 専門基礎教育の充実＋開講科目の
- 多重路線カリキュラム（基礎教育の充実＋高水準学生への対応）
- 整理教職員資質向上
- 専門的抱え込みからの脱却（視野の広い人物の育成）
- 授業評価
- 受講単位数制限（大学審議会答申に沿った）
- 技術者倫理教育
- 第三次長期計画

2000年度教務委員会で取り組む主な課題（増田教務委員長：H12.4.7）

- 伊藤工学部長からの指示として、学部教育の実質的な充実（基礎科目の徹底教育）
- FD 充実
- シラバス充実
- 教養ゼミ改革
- 文化講演会再生
- 教育目標の明確化

- 大学院との連携
- JABEE 対応カリキュラム作成
- 学内情報化（シラバス電子入力など）

**2000年度の教務委員会経過（増田教務委員長：H13.3.21）**

- 基礎学力充実のための具体的方策を提言
- 履修科目数の制限実施
- 授業改善アンケート改訂（継続）
- シラバスの一部改善（ウェブ公開）
- FD 充実（停留）
- 学科単位での科目改廃、学部での統一的な検討は進展せず
- 教育効果向上策は実施せず
- マレーシアツイニングプログラム
- 編入学・転学部・転学科の指針作成
- 学年暦（自学自習縮小、特別指導期間新設）
- 履修申告辞退制度
- 公開授業制度（教養ゼミのみで実施）
- 教養ゼミの改革（実施要領作成、運営委員会設置、すべて半期科目に）
- 企業が要求する基礎力養成カリキュラム（アンケート実施、インターンシップ導入）
- 学内情報化（シラバスウェブ公開）

**平成13年度検討事項とWGについて（永井教務委員長：H13.5.16）**

- 基礎学力養成のための具体的な方法を検討して年度内に答申
- 教育実践研究会の実施
- 文化講演会の改革
- 教育年報の改革
- その他の事項は時限的にWGで検討

**インフォーマル教務委員会「単位数に見合う教育方法及び基礎学力の養成方法」**

- 目標の明確化
- ポートフォリオ評価
- 外部試験への補助
- 学習ガイドライン作成
- 海外研修の充実
- 入学試験の科目再検討（必修を増やす？）
- 週二回授業
- 進級条件への基礎学力試験導入
- 自学自習教材作成
- 授業マネジメント用TAの導入

- 半期化、前後期開講、開講学期の共通化
- 高レベルクラスと補修クラスの導入
- 自学自習を促進する施策
- 優秀学生の早期大学院進学
- 優秀学生の定義を絶対評価に
- ティーチングティップス開発
- 良質で魅力ある教育プログラムの提供を研究するセンターの構築
- 学生提案による講義の実施

#### 合宿討議資料「工学部の教育について」(永井教務委員長：H13.9.10)

- 教育に対する意識を高めた教員
- 科目数を厳選
- 教育目標を明確化
- 体系的なカリキュラム
- 学生自ら考える授業方法の工夫
- 勉学の習慣を身につけさせる
- 学習の成果を確認する
- 具体策(実験演習比率、レポート宿題予習復習、小テスト、考えさせる演習、少人数で学生教員TAの密な関係、カリキュラム体系、進級条件)
- 学習教育支援センター構想(兼任者と退職教職員)
- 創造活動スペースの設置

#### 基本問題WG活動報告(永井教務委員長：H14.3.20)

- 学習支援室の設置を具体策をして提案
- モデルカリキュラムの枠組み提示

#### 教務委員会活動報告(永井教務委員長：H14.3.20)

- コア科目の設定、基礎学力要請施策について学科にアンケート実施
- 学習支援室案を策定
- 主体的に教育実践研究会を実施。年二回も視野に。
- 文化講演会の活性化
- 教育年報への学外者寄稿

#### 平成14年度の検討事項について(永井教務委員長：H14.4.1)

- 学習支援室の具体化
- 教材開発支援、教材展示、創造活動支援
- 次期モデルカリキュラム作成
- FD活動強化(教育実践研究会実施、教育研究センターシンポと連携)
- 大学院との連携

● JABEE 対応

平成 14 年度教務委員会まとめ (H15.3.20)

- カリキュラム改定の基本方針 WG 案作成
- 両学部教務委員会主催で教育実践研究会開催
- FD 活動について資料収集・調査
- 教育研究センターとの意見交換
- JABEE 講演会開催
- JABEE について調査
- 文化講演会の生涯学習センターとの共催
- 推薦で修士課程入学できる上位学生に対して修士課程の授業科目聴講を認め、入学後に単位認定する制度の提案

平成 14 年度合宿討議「工学部の戦略」(伊藤前工学部長：H14.9.10：平成 14 年度教育年報より)

- 英語コア科目宣言、リスニング自習必修制度
- 専門のコア科目設定、重点教育
- 実験実習の充実、物理実験・化学実験の必修化
- 経験学習重視、インターンシップ
- 3 年卒業制度
- 優秀な学部学生への修士科目の聴講許可
- 将来は学部修士一貫教育コースへ

平成 14 年度合宿討議・グループ討議でのアイデア (H14.9.10：平成 14 年度教育年報より)

- きめ細かい教育→負担増、科目の厳選、教育業績評価
- 学生実態調査の必要性
- 魅力ある教育→英語、実務・地域との連携、問題発見型
- 日本語能力、論理的思考の強化
- 教育に関する努力をアピールする仕組み
- 自己評価の実施
- 学力の上の学生が入りたくなる大学にする施策
- 2009 年問題は、本物志向の大学が生き残るという意味で、金がかかる
- 武蔵工業会との連携、入学者推薦制度
- ボトムアップ→習熟度別教育
- トップアップ→3 年卒業制度、修士科目の聴講許可
- 体験学習強化
- TA,SA の有効活用
- 教育効果を高めるインフラ整備
- 英語教育→体験学習、短期留学、交換留学、国際会議誘致

1999年から2002年までの教務委員会関係の活動・提言  
2003年4月14日

工学部教務委員長  
皆川 勝

- グループ研究、事例研究、インターンシップ
- 必修科目の復活
- JABEEにより目的意識を持った学生を育てる。
- 自学自習を奨励するシステム構築
- 学生アンケートへの対応とその結果の開示
- 年次計画でステップを踏んだ改革